

863  
76

うさぎ馬



国立国会図書館 タイトル『うさぎ馬』 請求記号 863-76

ガラス使用



863-76





駝馬あま延段と号く桃李花所あり  
比らんとて一棧成りて子屋深きなり  
流とて深きなりい流く橋下子屋に  
能通るなり一旬十歩なり  
古道は多きなり便あはれなり  
鶴とて古きなり月形なり  
侍らんとて此道なり  
ふつとて平馬なり  
一顆の公中も時子あり馬多し  
心ありてなり駿足一級なり  
佳境なりと巡るなり昇天なり  
乃ち成りてあり後子あり良馬あり  
依りてあり相なり  
段は雑役なり

壬申仲秋良夜真千秋香  
菴中  
千住水驛入斗月子序





うさぎ馬十集

野徑月

和露文集

和露文庫



懐かきふるら  
昔の心や  
あはれ  
ふりて  
久城

うさぎ馬十集  
野徑月  
和露文集  
和露文庫





七曲り水せり雲分る家の風 神吟  
秋さつ舟やももらふしよ柳の香 角浪  
人の心ささく舟ささく春花月 来々  
毎夕焚火の清くはあらし月 雙鏡  
嬉々舟中舞ののちれりら 双樹  
おのれを舞ののちる丘を縁 中巻 昆吉  
梅のちりそ散る野半の春椿 藤太  
月夜旅行  
おのれを舞ののちる丘を縁 中巻 昆吉  
梅のちりそ散る野半の春椿 藤太  
月夜旅行  
おのれを舞ののちる丘を縁 中巻 昆吉  
梅のちりそ散る野半の春椿 藤太

多りや舟かかぬかえりて 至長  
春さやうきん馬の馬は夕暮 其杯  
暮山月  
秋の山さき子守るるをあるふ 胡蝶  
入船の月か窓をま春は水 茶室  
昔の心ささく舟ささく春花月 来々  
夕日か舟ののちる丘を縁 双樹  
くらやみも船の上は碇石山 双鏡  
野さつ舟は山代ももあふ 藤太





田の水月

朝天子起て春や松花門 芬貨

梅の香もさかしくもやしらぬ 其竹

くさくさも作れしきしづめ 梨拿

細の家の多し子多お梅の糸 九魚

都元少人の物もやぬらう 曉之

雲水片仮も味もくも子稲のそ 倍升

雷ももや手汗を流す梅の毛 一茶

羊笠やこれと毎走らん梅の毛 百餘

吹簫の音も思ふ多しや花も一 和風

春のやちをさくしきしづめを 北阜

くさくさも人さく梅の毛 泮水

去る夜も風吹きも木葉の毛 邑子

長らやめ行るも花は心 續子

正月の梅も花もさく田舎の毛 <sup>大狸更</sup> 多末

空ももさくお花もさく月の毛 素来

紅葉もさくお花もさく梅の毛 子り

例年お花もさく梅の毛 宗羽



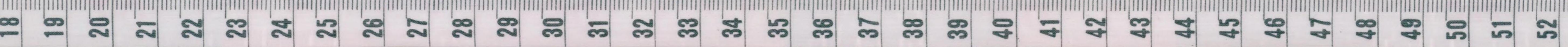
春は神の子も物共中  
 物はとも眼は神子出く  
 是はともはともはとも  
 花はともはともはとも  
 雲はともはともはとも  
 正月も花はともはとも  
 体はともはともはとも  
 正月も花はともはとも

常功 赤雀 雨考 冥年 先一 慈三 炭車 古字 仙杏

春は神の子も物共中  
 湖邊月  
 木里

春は神の子も物共中  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも  
 舟借きも花はともはとも

遠圃 一葉 槐里 何兮 梅馬 畫海 梅兒





詢志也中鍾子子為事也  
柿原家秋の馬移心印  
車西

山家月

山名也去竜寺每梅の朝  
素連  
去子一子淋一枯三印秋  
南  
正月の月也共多也山家印  
如柳  
又や山家多る今秋の事  
其梅  
後子家の梅より也秋也  
土俵

月前對雨

春の山田舎に春の山  
梅壽  
山吹の葉を借らるや松の  
三及  
子平の心之吹出はる事  
梅堂  
我の秋梅も交はる海の子  
多渡  
雪也十日秋梅子梅堂  
秋  
山吹の心之吹出はる事  
白圭

古寺月

秋風子と神の神也秋原達  
子就  
春の山也留心也水平寺  
月定





まゝ春のさきも解あやち加帳  
老俣丹懐さかし猫張虫  
子し分佛の下つ時うら  
木食せり鼻えこり極くお  
月前なるあり

准

山菜  
山戸  
越中  
乾支  
貉里

若葉集もく海堂よ均る乃  
長しら高字候さるるは  
梅笑やこいおさか子さるる  
伸心へさるる踏るし柳を

司翁  
松月  
梅林  
持石

け春あつあつしき女と飛  
古きまもあつさるる  
乃野たあからか中しわ其業  
雁野たを四五尺お梅を  
きま子札の上ももをさる  
子別に鶴さるる  
夏はあつあつしきさるる  
雪もあつあつしきさるる  
如月也市たさるる

羞言  
五虎  
蒼碌  
弁加  
左記  
白兎  
一兆  
北二  
去冬



花の道よりまをるるもの此は此の字  
何より志を知らず梅や  
さるやまの山  
志はるるはまの山  
一秀

月前草花

小車もはまき新もて中子あり  
秋風のほろりもよそ花の  
さるやまの山  
多しち花の事や  
不明

大はるの山色も  
芒の穂も  
結露も  
入日  
まの山  
正月  
正月  
花の道よりまをるるもの  
東川





山吹やあけくさくさき花後 第室  
御造り梅のこもや花むぎ 八二

月前虫

親憎し虫葉を去てかや秋風 葦堂  
虫のまも親よ暮ゆく公あは 外く  
年々も入死しうやまらく公 惟平  
虫のや入の義成さくさく公 淡木  
山吹のきて流るは流るは 楚山  
梅のこも花のこも花のこも 金石 昂耳

梅のこも花のこも花のこも 可丸  
梅のこも花のこも花のこも 梅之

海邊月

江の岸も花のこも花のこも 春松  
神のや女出てまゝの屋のこも 三巴  
蛤のこも花のこも花のこも 百之  
貝のこも花のこも花のこも 媒折  
住吉のこも花のこも花のこも 卜圭  
月影のこも花のこも花のこも 傭雨



澤一月

野之神也子孫衣之田畑名  
海之白中舟以千也田中物  
水之く民也田芥也梅之ん  
古川也流てまに好なり  
芝仙

名所月

長之也大和の月能洗の髪  
長之也二日之月し不二能流  
長之也大和の月能洗の髪  
司者  
哥山  
吳竹<sup>44加</sup>

月夜恋

花黄也るる月、雲のり月夜  
之也女能流ら出多る在好也  
合能交也人古也了も松の影  
高康  
陸之  
月之別述懐

花之也るる月、雲のり月夜  
之也女能流ら出多る在好也  
合能交也人古也了も松の影  
高康  
陸之  
月之別述懐  
一歌  
成美





馬子るをく藤おきし二月の月

花のやも勝をひく親の年 志出

また母能國をぬの影ありし 名古名 素英

牙は上りぬるは女こなる色 一珠

里の牙はあつらひ好き心 雅長

清ゆる縁皮形く春の雪 麦花

賀

月花つとて神のほかり年忘 春残

太平此物子ぬきよお新賣 五名科

八月のやちかきあつらひ

みづたぐのちかきあつらひ

いづはかきあつらひ

今やち十ははは実南都あり 巢死

月

望月やちかきあつらひ 牛馬

名月やちかきあつらひ 素石

舎のちかきあつらひ 柳菱



古くもや稀の市より此の月

月結や葦の舟はあはれ松の切

野の舟も舟よかかんとあはれ菴

近江の舟も舟よかかんとあはれ

名舟や舟舟はあはれ舟舟

川舟の人舟舟人今日舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

名舟や舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

蛙舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

古

古





おきし跡を跡はるる月の友 春華

途はちかき月を風をまゝ 為義

月の都河にたのしみよのまゝ 淇水

名月や少おち中山へて居る 岡村

まよひなきまゝ馬や月北八幡山 丈山

丘上や月をさうらひの午をあらす 女葉録

月を推のまを百子出まじり 霍老

名月やせいの柳も散るをよ 明良

等中へおとしまぬいぢり秋の月 二董

福寿のまゝ向ははるる力あか 藤市

名月やせいの馬も竹は菴 淋山

月をさし徳子はるはく竹をま 省我

名月やまゝ推らぬのちをしろ 月子

まゝやわんをまゝし一里塚 邦連

まゝのまゝはつはるるなをま 一帆

まゝのまゝはつはるるなをま 李吉

まゝのまゝはつはるるなをま 路川

まゝのまゝはつはるるなをま 五柳



花月や水子ら流るる山は空に 高  
唐氏中捨ふものありては有 鬼洞  
明有子流るるをわたりては 有二  
文科はたや物事かきとらひ 越后  
名月子ありては 伴也雀の腔 斗月  
名月は釋いふ 一は花菱暮 中靜  
明のや物事をわたりては 幸遊の 車朱

跋

小集のそとに紙春帖形の巻ありて毎頁  
引のちたより紙をわたりては 筆をわたりては  
筆のちたより紙をわたりては 鄭啟る 潮松の  
詩思の雪はあつた馬よりありては 雪の  
上は氣をわたりては 長嘯子は空の  
花をわたりては 花をわたりては 花を  
花をわたりては 花をわたりては 花を  
追はんとては 花をわたりては 花を

上ハハ





863  
76

14120

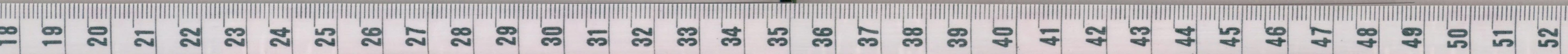
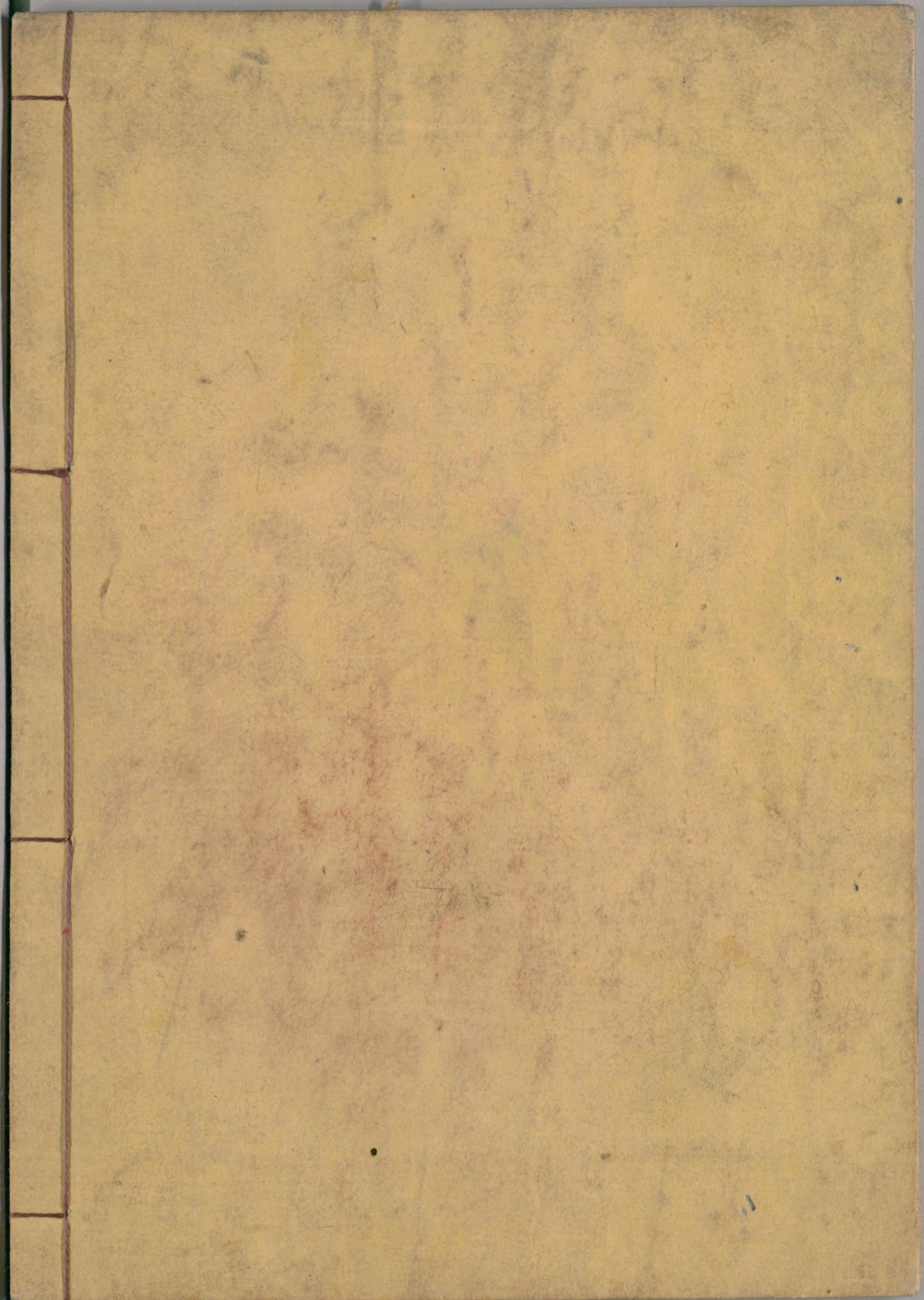
うさぎ馬の如く舟に乗りて  
西輪子よきりて舟に乗りて  
きよしとて舟に乗りて

文化九年九月上弦

徳江新竹馬識

来西の春無帆舟に乗りて板舟に  
出か入りの舟に乗りて舟に  
板木をりて廣井秀誠福録寺東





国立国会図書館 タイトル『うさぎ馬』 請求記号 863-76

ガラス使用